A Toilet for Everyone

自分の好きなトイレを見つけられる場所

桜山を拝む明るく広い空間と本計画地ならではの豊かな自然を感じることのできる二面性のある空間

雨には非日常的な体験ができる親水広場

木漏れ日の落ちるアプローチとアイストップとなる手洗い広場

■設計主旨：公衆トイレを公園のランドスケープの一部として捉え、トイレブース毎に【個性】を付けることでまるで公園の中でお気に入りの場所を見つけるかのように楽しく使えるトイレを提案します。

01. 公園ように好きな場所を見つけられるトイレ

根岸森林公園は、住宅地区の施設を挟んで馬場内エリアとスタンドエリアに分かれており公園内には、**【大きく開けた芝生エリア】**や**【木漏れ日落ちるエリア】【桜や池を楽しめるエリア】**など様々な場所があります。公園を訪れる人は各々好きな場所を見つけ、好きなの時間を過ごすことができます。本提案は、まるでそんな公園のように**好きな場所を【選択できる】トイレ**の提案です。

02. Selectable Toiletに向けた三つの特徴

本提案は、公園に求められるトイレとして以下の視点を重視します。

2-1 根岸森林公園の美しい自然と共存するデザイン

2-2 トイレブース毎に変化する空間体験

2-3 使いやすく管理のしやすいシンプルな構成

本計画地は、芝生エリアに面した見通しのいい場所です。周辺には樹木が多く残りそれらと共存するデザインとします。
トイレという空間をただ使うだけではなく、利用者に選択性を持たせた変化のある空間体験ができる空間とします。
公園のトイレは、不特定多数の人が利用する場所です。使う人、管理する人が利用しやすいようにシンプルな構成とします。

03. 公園と共存するデザインを目指して

□外観のデザインでは、**風の抜けるような軽やかさとトイレとしての守れらているような安心感**を意識しています。同時に周辺の自然豊かな風景と響きあうように木ルーバーを用いています。木ルーバーは建築を自然になじませるだけではなく、昨今の大きな問題でもある**壁面の落書きやいたずら**などを抑制します。また、蜘蛛の巣などを考慮し、ルーバーの**デプスを浅く抑え、ホウキなどで容易に手入れができる**ように配慮しています。

□空間のデザインでは、従来のような外と内というような明確な境界ではなく、**「大きく開けた公園として屋外」**-**「ポリカーボネート板とルーバーによる影の落ちる半屋外」**-**「視線と風の抜ける半屋内」**-**「変化のある多様な屋内」とグラデーション**をかけ晴れの日だけではなく雨の日なども楽しめるデザインとしています。

□利用者の目線では、わかりやすくトイレをコンパクトにまとめていながらもそれぞれの**入口は視線が重なり合わないように向きを変えて配置**しているとともに、**余裕のある平面計画**とすることで公園を訪れ、トイレを使うすべての人が快適に使えるデザインとしています。

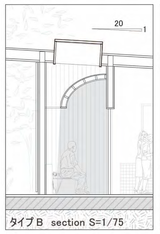
04. ブース毎に異なる断面を持つトイレ空間

昨今、誰もが安心して使える公共トイレの重要性は増しています。そんな中公園のトイレは、性別の別なく、年齢の別なく、時間、時期に別なく、すべての人が使う物です。そんな多義的な空間がこれまでのような**単一的な形式のみでデザインされているのではなく、様々な特性を持ったトイレのデザインが必要なのではしょうか。**本提案では**、平面的にも断面的にも形状の違う様々な個性のあるトイレ**が配置され使う人の選択によって様々な体験を演出します。

タイプDのトイレを見る

タイプEのトイレを見る

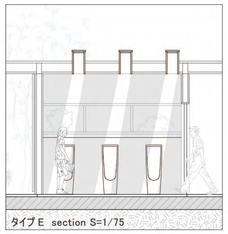
タイプ A section S=1/75



タイプ B section S=1/75

タイプ C section S=1/75

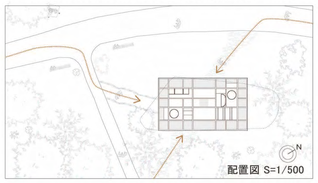
タイプ D section S=1/75



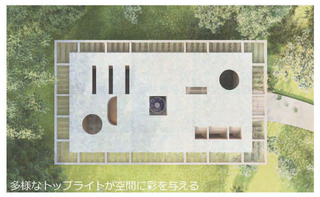
タイプ E section S=1/75

05. 利用者の動線を配慮した配置計画

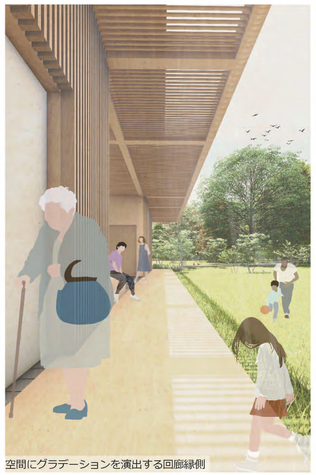
計画地は芝生広場や馬の博物館への動線などが重なる結節点にあたります。様々な目的をもつ人が集まり利用できるように**人々の流れを受け入れる配置**とします。**屋外**-**半屋外**-**半屋内**-**屋内とグラデーション**をかけ、公園のランドスケープに馴染む計画とします。



配置図 S=1/500



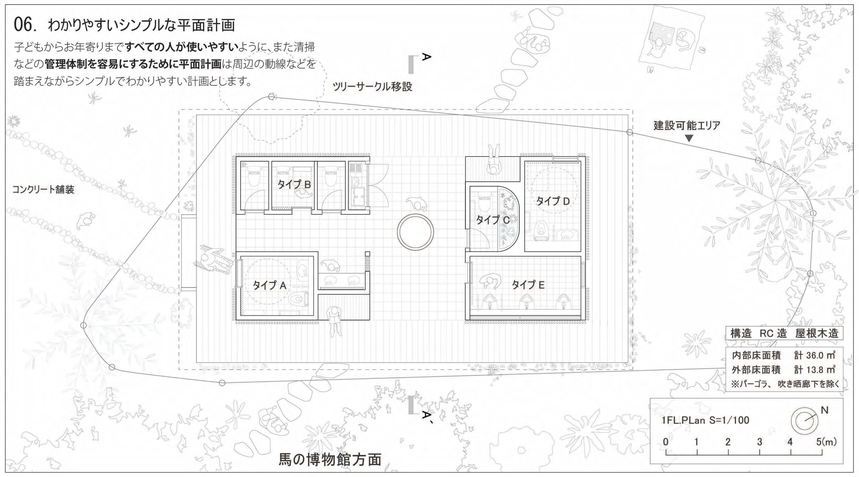
多様なトップライトが空間に彩を与える



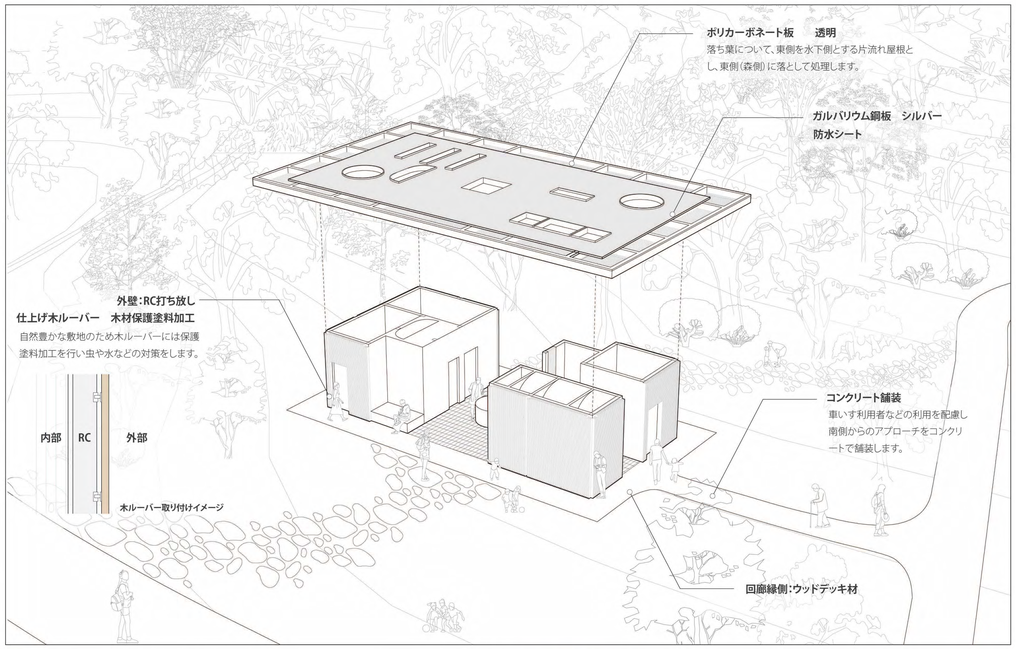
空間にグラデーションを演出する回廊縁側

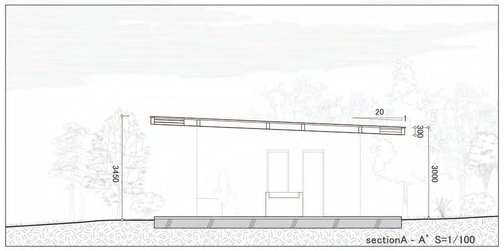
06. わかりやすいシンプルな平面計画

子どもからお年寄りまで**すべての人が使いやすい**ように、また清掃などの**管理体制を容易にするために平面計画**は周辺の動線などを踏まえながらシンプルでわかりやすい計画とします。



馬の博物館方面





sectionA - A' S=1/100

スイレン池から奥に視線が抜ける伸びやかなアプローチ